

会 議 録

1 付属機関等会議の名称

平成28年度第4回美里町在宅医療介護連携推進会議

2 開催日時 平成29年2月9日(木) 19時00分から20時15分

3 開催場所 美里町健康福祉センター 2階研修室

4 会議に出席した者

(1) 委員

横山眞和委員 野田清一委員 木村泰之委員 佐々木義夫委員 尾形文克委員
小野洋美委員 東海林奈菜絵委員 佐々木宏子委員 青木正男

(2) 事務局

佐々木さとみ 野田浩司 相原浩子 高橋ひろみ 横山太一 小林公美

(3) その他

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議題

来年度の事業計画について

会議の公開・非公開の別

公開

6 非公開の理由

7 傍聴の人数

0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

- ・来年度、介護事業所や医療機関の情報収集を早期に行い一覧化することで、医療介護専門職間の連携が促進されるようにする。
- ・町民向け研修会、専門職向け研修会や交流会等（同業種・異業種）を企画することで、それぞれが医療と介護の理解を深め、円滑につながりをもてるようにする。
- ・評価指標や相談窓口に関しては継続して検討。地域住民の意見や情報を聞く場面として、地区社協情報交換会に医療介護専門職が参加できるようにする。

(2) 詳細な意見

青木健康福祉課長	今年度最後の在宅医療介護連携推進会議となります。来年度の事業計画について考えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。
相原技術主幹	<p>前回までの会議で挙げられた意見をもとに、来年度の事業計画案をお示しして、皆様からご意見いただきたいと思います。</p> <p>今後の事業の目標として、1 .困ったことを解決するために相談ができる住民。サービスがうまく使える住民。2 .町民の困ったことを支援できるよう考えられる専門職。つなげられる専門職。3 .町民を支援できる医療と介護の連携体制。以上の3点です。</p> <p>この目標を達成するために来年度に取り組む4つのことを考えました。目的は「資源の見える化」「地域の力を高める啓発」「顔の見える関係づくり」「スキルアップ」です。</p> <p>「資源の見える化」として、介護事業所や医療機関の一覧・マップ作成。「地域の高める啓発」として町民も医療・介護従事者も参加できる研修会の実施。「顔の見える関係づくり」として医療・介護に関わる同業種・異業種の交流会。「スキルアップ」として多職種連携を考えられるような研修会を考えたい。これらの案について、ご意見いただきたいと思います。</p>
小野委員	一覧・マップ作成やホームページ掲載、研修会の講師謝礼などに経費が必要になる場合、予算はどうなりますか。
相原技術主幹	町のホームページ掲載は町職員が行っているため、経費はかかりません。一覧・マップ作成は、作成方法によって必要な経費が変わるため、来年度に検討していきたい。講師の依頼先等によって必要な予算は異なるが、講師謝礼は予算化しているものはあります。
東海林委員	宮城県地域医療対策事業で講師派遣できるものがあるため、活用してもらえればと思います。

相原技術主幹	必要に応じて、相談したいと思います。「顔の見える関係づくり」について、木村委員から同業種交流の希望がありました。具体的な企画について木村委員からご意見ありますか。
木村委員	今までの例があれば教えてほしい。
相原技術主幹	高齢者虐待や認知症の研修開催を町内薬局に案内したが、平日日中の開催であったためか薬剤師の参加はほとんど無かった。
木村委員	薬剤師は日中に職場から離れることは難しいと思います。
相原技術主幹	薬剤師が参加できるような場所・時間を検討して、交流・研修できる場面を考えたいと思います。
木村委員	在宅支援している薬局もあると思うが、薬局ごとに方法も異なると思います。在宅支援に今後取り組みたい薬局もあるかもしれない。在宅支援の方法を薬剤師・薬局間で情報共有できれば良いと思います。
相原技術主幹	交流会の開催通知等を送付するだけでなく、直接声をかけて今の話を伝えたり、薬剤師から意見を聞いたりしながら、情報共有できる場面を作っていきたい。
東海林委員	大崎市で薬剤師の研修等がある場合は、平日夜間の開催が多いですか。
木村委員	平日夜間が多い。大崎市で開催する場合は参加者も多く、在宅支援を行いたいが具体的にどうしたらよいか・・・というテーマで話し合われることもあります。
相原技術主幹	来年度の交流会・研修会を企画するなかで、時間帯も検討しながら、薬剤師間の関係づくりができるようにしていきたい。来年度事業や連携推進会議の予定時期については、資料に記載のとおりですが何かご意見ありますか。
横山委員	8月3日は他の予定があるため、再調整をお願いしたい。
相原技術主幹	他の日程についてはご意見ありますか。 (なしの声) それでは、来年度はこの予定で事業を行っていききたいと思います。続いて、今後の課題について検討したいと思います。課題1として事業の評価方法です。例えば研修会や交流会について、参加人数や参加者アンケートによって評価することはできると思いますが、他に事業を評価できる指標はありますか。
佐々木(義)委員	参加人数の他に、参加事業所・団体数も含めた方が良いと思います。参加事業所数が増えれば、連携がすすんだと評価できるのでは。
小野委員	例えば、A 事業所から B 医院へ相談・連携した回数を数えたり、マップに線を引いたりして、連携した数を「見える化」するのはどうか。医療と介護が連携した数が見えれば、評価しやすくなると思います。
東海林委員	町が開催した研修会等について、事業所の受講歴を可視化したり公表できても良い。参加した職員・事業所のスキルアップが目に見えるようになるし、強みにもなると思います。
横山委員	介護事業所・医療機関のマップがないと、事業も推進しにくいと思います。マップの作成は H29.12 月までの予定ですが、もっと早く完成できると良い。
野田委員	事業所・医療機関すべてが、積極的に地域包括ケアに関わってくれるとは限ら

	ない。マップ作成のために行う事業所等との調整を通じて、どれだけ連携を図れる事業所なのかが見えてくるかもしれません。
相原技術主幹	具体的なマップ作成については宮城大学の事業構想学部と連携する案もあるが、早期に介護事業所・医療機関をまとめたものが必要であれば、初めに事業所・医療機関からの情報収集を行い、一覧化できるようにしたいと思います。
小野委員	初めに、町民向けのものを作成しますか。
相原技術主幹	検討事項ではありますが、医療・介護の連携が図れるよう、はじめは専門職向けの一覧を作成することになるかもしれません。
東海林委員	介護事業所・医療機関への説明や情報収集等を行う際は、直接出向いて話をしますか。
相原技術主幹	早期の一覧作成を考える場合は、事業所等を訪れる時間がとれない可能性があるため、文書での情報収集になるかもしれません。
東海林委員	既に情報収集を行った加美郡では、担当職員が介護事業所・医療機関に出向いて説明しながら詳細な情報を得ていたようです。
横山委員	加美郡でどのように事業所等から情報を聞き取りしたのか、聞いてみて参考にするのはどうですか。
相原技術主幹	参考に聞いてみたいと思います。
小野委員	事業所等に依頼などを行う場合に、「在宅医療介護連携推進会議の～」と話をしてもタイトルが長くなるため、短くわかりやすいタイトルを考えても良いかもしれません。
相原技術主幹	来年度1回目の連携推進会議開催前から、できる範囲で介護事業所・医療機関等情報収集の内容や方法を考えていきたいと思います。次に課題2として「相談員、相談窓口の設置について」です。医療・介護の知識が求められる相談員を、町内や地域に相談窓口として新たに設置することができるのか、具体的に来年度どう計画していくかを検討したいと思います。
野田委員	地域包括支援センターを活用すればいいと思います。
横山委員	介護支援専門員の資格を取得している専任の相談員を、地域包括支援センター等に設置するのはどうですか。
佐々木(義)委員	専門相談窓口につなぐための、小さな地域ごとの相談員・窓口があっても良いかもしれません。地域の相談員は専門家でなくても良い。
相原技術主幹	具体的にどのような方法が可能なのか検討していきたいと思います。 課題3として「町民の意見や情報を聴く場について」です。今までの議論のなかで、地域の実情がわかる場面があった方がいいという意見がありました。 各地区社協で年1回程度は情報交換会が開催されており、包括職員も参加しています。来年度も地区社協情報交換会に参加して地域の情報収集を図りたいと思いますが、地域包括支援センター職員だけの参加で良いのか、この会議の委員にも参加していただいた方が良いのか検討したいと思います。
尾形委員	地域住民の意見や困りごとを聞ける場に専門職も出向く場合は、ある程度テ-

	<p>マを絞って聞いたほうが良いと思います。漠然と話を聞いても、参加した専門職と関わりが無い話題ばかりになるかもしれません。例えば薬剤師が参加する場合は、薬や薬剤師に関するテーマで、町民の意見や困りごとを聞ければ良いと思います。</p>
相原技術主幹	<p>いろんな事業所の専門職が、地域の情報交換会のような場に参加できると良いでしょうか。</p>
尾形委員	<p>そうですね。介護・医療の専門職が地域の困りごとを聞けると良い。</p>
相原技術主幹	<p>この会議の委員以外の専門職も、希望者がいれば参加してもらった方が良いでしょうか。</p>
尾形委員	<p>可能であればその方が良いと思います。私たち専門職は地域住民が何に困っているかわからない。専門職が想定していない困りごとが地域にはあるかもしれません。</p>
東海林委員	<p>地域包括支援センター等が住民から受ける相談内容等を集約したり、どんな相談が多いかわかれば、地域での困りごとが見えやすくなり、今後の検討材料にもなるかもしれません。</p>
相原技術主幹	<p>いろいろな専門職の人が、地域の声を聞けるような企画を考えていきたい。</p>
小野委員	<p>地域住民の意見や困りごとを聞く機会が無かったので、ぜひ参加したいです。いろんな地域の情報を知りたいと思っていました。</p>
相原技術主幹	<p>地区社協情報交換会のような社協とつながりがある場に参加すると、住民も安心して話を聞かせてくれるし、参加する職員や事業所も考えや役割等を住民に伝えやすい。役場や社協とつながりがない場面では、サービス事業所の営業だと思われるようです。</p>
佐々木(義)委員	<p>営業のイメージを与えないように工夫することも必要です。一人で全ての情報交換会に参加するのは大変なので、みんなで手分けして参加した後に地域住民の困りごと等を集約できると良いと思います。</p>
東海林委員	<p>今までの情報交換会は地域包括支援センター職員だけが参加しましたか。他の係の職員も参加しましたか。</p>
相原技術主幹	<p>建設課の職員も出席しています。職員が改めて町民に声をかけ、集まっていたくのは難しいため、情報交換会など町民が集う場に私たちがお邪魔させていただくという姿勢で出席してきました。</p> <p>他に何かご意見ありますか。</p> <p>(なしの声)</p> <p>今回いただいた意見を基に、来年度の事業を実施していきたいと思います。</p>

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成 年 月 日

委員 _____

委員 _____